

## 令和3年度予算のあらまし

令和3年度那珂川町一般会計予算は、8,950,000千円となり、前年度予算に対し、1,000,000千円増（12.6%増）となった。この主な要因は、町民プール整備事業や新型コロナウイルスワクチン接種事業費などが増額したことによるものである。また、地方道路交付金事業費や消防施設整備事業費、中部中山間地域総合整備事業などは減額となった。

特別会計は、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、下水道事業特別会計で減額となったが、ケーブルテレビ事業特別会計、介護保険特別会計で増額となったため、特別会計の予算総額は4,915,000千円となり、前年度予算に対し、34,000千円の増（0.7%増）となった。

ケーブルテレビ事業特別会計予算は、250,000千円で、ケーブルテレビ事業費や公債費の増により、前年度予算に対し、32,000千円の増（14.7%増）となった。

国民健康保険特別会計予算は、2,122,000千円で、国民健康保険事業費納付金の減により、前年度予算に対し、18,000千円の減（0.8%減）となった。

後期高齢者医療特別会計予算は、214,000千円で、後期高齢者医療広域連合への納付金の減により、前年度予算に対し、5,000千円の減（2.3%減）となった。

介護保険特別会計予算は、1,977,000千円で、施設介護サービス給付費の増により、前年度予算に対し、32,000千円の増（1.6%増）となった。

下水道事業特別会計予算は、306,000千円で、公債費の減により、前年度予算に対し、7,000千円の減（2.2%減）となった。

農業集落排水事業特別会計予算は、46,000千円で、施設管理費及び公債費が主なもので、前年度同額予算となった。

水道事業会計予算は、697,400千円で、施設管理費の減により、前年度予算に対し、11,100千円の減（1.6%減）となった。

これにより、一般会計及び各特別会計並びに水道事業会計の予算総額は、14,562,400千円となり、前年度予算と比較して、1,022,900千円の増（7.6%増）となった。

一般会計における歳入の財源内訳、歳出の性質別内訳は、次のとおりとなった。

●歳入内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
自 主 財 源	3, 1 6 7, 0 1 1千円	3 5. 4%	1. 7%増
依 存 財 源	5, 7 8 2, 9 8 9千円	6 4. 6%	1 9. 6%増

●歳出内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
投 資 的 経 費	1, 4 3 6, 2 6 3千円	1 6. 1%	1 6 1. 3%増
消 費 的 経 費	5, 2 0 3, 8 3 0千円	5 8. 1%	1. 7%増
その他の経費	2, 3 0 9, 9 0 7千円	2 5. 8%	1. 2%増

歳入の構造は、自主財源において、新型コロナウイルス感染症の影響により個人町民税や法人町民税などの町税が減額するなど、厳しい状況にあることから、財源不足を補うため財政調整基金からの繰入金を増額することとなり、3,231,391千円（対前年度比116,754千円増、3.7%増）を計上した。依存財源については、地方消費税交付金が消費税増税分の社会保障財源分で増額になることと、国庫支出金が町民プール整備事業や新型コロナウイルスワクチン接種事業により増額となった。普通交付税においては、合併特例期間の10年が経過し、段階的縮減も終了するが、公債費等の需要額の増加を見込み、前年度同額としたものの、県支出金においては減額となった。町債については、町民プール整備事業や町道改良舗装事業などに充当することとし、将来の財政負担に支障がないように過疎対策事業債や合併特例事業債などの有利な起債を活用する。また、財源補てんに充当する臨時財政対策債については、国の令和3年度概算要求を踏まえて、200,000千円を計上した。この結果、依存財源は、5,782,989千円（対前年度比947,626千円増、19.6%増）となった。

歳出については、町民ニーズを検証し、安心・安全な生活基盤を構築するため、費用対効果の観点から、各事務事業の見直しを行い、創意工夫と柔軟な発想を持って、予算を編成したところだが、町民プール整備事業が増額になるため、対前年度比1,000,000千円増、12.6%増の予算となり、「第2次那珂川町総合振興計画後期基本計画」に基づき「那珂川町人口ビジョン」及び、「那珂川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた地方創生に向けた取り組みなどに重点を置き予算措置した。